2019年（令和元年）
5月21日
（第三種郵便物認可 昭和23年4月15日）
（毎週火曜日発行）

今号の特集

▷健康機能性飲料特集　④～⑤面
▷ペットフード特集　⑥～⑨面

中部飲食料新聞社ホームページ
http://chuin.net/【業界情報発信中】

tabete
国分グループ本社株式会社
http://www.kokubu.co.jp/

第3330号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5－18－9
電話（052）571－7116代表
FAX（052）571－7118
東京支局
東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電話（03）5614－7531
FAX（03）5614－7532

中部飲食料新聞

大正から 食を伝えて100有余年

GW10連休 需要取り込み成功

後半戦は少し伸び悩む

歴史的な長さとなった10連休とその間に改元が行われた今年のゴールデンウィーク。量販店の店頭ではバーベキューなどのアウトドア商材の提案が活発だったほか、改元に合わせた記念商材や縁起の良い商品が展開された。家族が集まる機会として寿司や焼肉などのご馳走メニューの提案も進められた。量販店に連休や改元の取組みの反応や手応えを聞いた。

10連休の売れ行きとしては総じては堅調・順調だったとの声が多い。内容については「天気が悪かったこともあり、前半は家にいることが多かったようで4月の売上は好調。一方で5月3日以降は天気に恵まれ、外出が増えたためか伸び悩んだ感があった」『アウトドア需要を見込んだバーベキュー商材は好反応を得た」などの声が聞かれた。長い連休であり、金融機関が休みなので序盤は消費に少し慎重な面も見られたが、在宅率の高い日を狙ったセールは好反応を得たようだ。

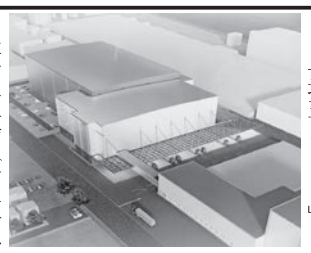
また、新元号「令和」への改元に合わせて、紅白や金銀など縁起の良いカラーの商品、『令和』の元号をデザインした商品、福袋などの〝祝・改元〟商品についてはGMSなどの規模の大きい店舗ほど反応が良かったようだ。「開店からすぐに購入するお客様がいるなど記念商品は好評で、華やかな見た目で売場の活性化にもつながった」などの好意的な声が聞かれた。しかしながら「〝祝・改元〟とした記念商品の動きは全体的には良かったものの、一部商品ではプラスオンではなく通常品との置き換えになったものも見られた」といった課題もあった。

改元を含むGW商戦が終わったものの5月はまだ前半戦であり、月を好成績とするにはこれからの販促が重要となる。例年、5月の中旬から下旬にかけて消費者はGWの疲れに加え、連休中の出費の反動から財布の紐が固くなる。今年はその傾向がより顕著に現れることが予想されるため、需要喚起の取組みが例年以上に重要だ。

コカ・コーラ ボトラーズジャパン 大型自動物流センター建設

国内最大級、省人化など推進

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは、人手不足や物流費高騰などに対応する最新自動物流センター「埼玉メガDC」を同社埼玉工場（埼玉県比企郡吉見町）の敷地内に建設することを発表した。



建物面積は1万4747㎡の3階建て。投資額は一四〇億円以上、竣工は2021年2月を予定。

同社はサプライチェーンマネジメントの最適化を進めており今回のセンター建設はその一環。高密度・高能力の最新自動化倉庫技術の導入のほか、カスタマーオーダーピッキングシステム、自動ハンドリング制御システムを新たに開発。保管数量は6万パレット、出荷能力は8100万ケースで商品保管能力は従来の設備に比べ約4倍の増強となるなど、コカ・コーラシステムとして国内最大のパレット保管容量や製品出荷能力を誇る。大きな消費エリアである東京・埼玉の全地区をカバーする基幹拠点となる。

4月19日の起工式でカリン・ドラガン社長は「当社が掲げる『地域密着』『顧客起点』の実現を図る上で、また得意先のニーズに迅速に対応するために物流体制の最適化は大きなテーマで、今回の新拠点は重要な位置づけとなる。投資額も当社最大規模で強い決意の表れだ。20年のオリンピックを含め、多様な品揃え、高水準のサービスなどで生活者への満足度をさらに高めたい」と説明した。

ブルース・ハーバート執行役員は「当社は物流の最適化を目指し、プロジェクトチームを立ち上げるなど戦略を練り上げてきた。国内及び海外規模で見ても最大級の保管能力を誇り、自動化など最新鋭の設備により、業務効率化や在庫最適化、高度な出荷能力などを実現した」と述べた。

ハウス食品グループ やまみと資本業務提携締結

業への変革」を目指す姿

ハウス食品グループ本社は㈱やまみと資本業務提携を締結した。ハウス食品グループ本社はやまみの発行済株式の3.5％を東京証券取引所の市場内立会外取引により既存株主から取得する予定。

やまみは大豆製品の総合生産メーカーとして高い製造技術を有し、西日本エリアを中心に豆腐や厚揚げなどの大豆製品を製造・販売している。ハウス食品グループでは「食で健康 クオリティ企

自然のおいしさ!!
コジマ ジャム
小島食品製造株式会社
本社　東海市名和町一番割中25
電話〈052〉603－3511
KOJIMA ジミー坊や

東海昆布協会 通常総会開催

東海昆布協会は5月12～13日に長島温泉で「第66期通常総会・商談会」を開催し、会員ほか29名が参加した。

総会は、事業報告・決算など各議案が原案通り承認されたほか、新たな取組みとして月例商談会の活性化を目的に①商談会歩金の廃止②同伴会費の廃止について議論され承認された。これにより商談会での売買活性化と参加者増加を目指すとしている。また総会後の商談会の冒頭に、西村光正会長（ミツ・社長）が「元号が令和に変わり新時代を迎えた。当会も今期から新たな仕組みとして商談会歩金と同伴会費を廃止することが決まった。これにより月例商談会の活性化を図るので活発な売買を期待したい。さらに同伴会費も廃止することで全国各地からの参加も呼びかけたい」と総会決議を説明。昆布業界の動向を「近年の北海道昆布は他の海藻と同様に供給環境は年々厳しさを増している。そこには海水温の変化など生育環境、生産者の減少など構造的な原因が考えられる。この環境だが、消費面では国内外で〝旨み〟に注目が高まっており、【だし】【旨み】文化の訴求によって活性化する可能性も充分にある。令和になり新時代を迎え、若い世代も業界に入っており、将来に向けて活発になって欲しい」と述べた。

商談会では、総会後の開催であることや歩金廃止によってか出品も多く活発な商談が見られ、数量で9170kg、出来高は一四五四万六九〇〇円と大いに盛り上がった。

（大橋隆士）

街角経済

最低賃金1千円？

夏のボーナスの支給が終わる頃から始まる『最低賃金』の引き上げへの取組みが、今年は既に盛んになってきた。この「最低賃金は時給一〇〇〇円時代」への近付きである。

注目されることは引き上げに大手企業が熱心のようで、そこには企業規模に関わらず働く人不足の厳しさが滲み出ている感がある。

現在の全国平均八七四円の『最低賃金』から、大幅な改定に応えられるのは収益の良い企業や生産性の高い企業、商品値上げを成功させている企業でなければ難しい課題だ。

さらに「アベノミクス景気は既に曲がり角」にあるという見方もあるように、経済環境は先行き不透明感が心配されだしている。

人出確保のために人件費の引き上げを最優先させているのに、これから景気の下落予想もあるなかでの今秋、大幅な『最低賃金』の引き上げ論は、一段と厳しい経営環境を招くと悩む小規模企業は多いようである。

ペットを通じて地域社会とのコミュニケーション
あらたグループ
ペットフード・用品の総合商社
ジャペル株式会社
本社 〒486-0802 愛知県春日井市桃山町3-105 TEL0568-85-4111(代表) FAX0568-85-4251